

## 視察研修・研修会等報告書

議席番号〔 10 〕 議員名〔 田中 喜登 〕

1 年 月 日	令和6年8月8日～9日 (日数 1泊 2日)
2 場 所	新潟県十日町市
3 観察・研修事項	大地の芸術祭（越後妻有アートリエンナーレ2024）観察
4 面 接 者	十日町市 産業観光部 文化観光課 課長補佐 山岸正行 NPO法人 越後妻有里山協働機構 事務局長 原蜜 県議会議員 今井政嘉 下呂市議会 中島達也 今井政良 森哲士 加藤久人 桂川いずみ 下平裕次郎
5 観察研修、研修会の成果	20年以上継続して開催されているイベントであり、地域住民への浸透の度合には目を見張るものがありました。「最低でも3回は続けると取組む意味が無いですよ」と言うアドバイスを非常に重く受けとめました。十日町市では最初の3回ぐらいは県からの補助があったものの、以降は市の単独事業となった経緯もお聞きしました。それでも粘り強く継続して開催してきたおかげで、少しづつ市民の理解も深まり、本来の目的である地域の活性化につながってきているとのことでした。開催期間中は多くの観光客が訪れるが、宿泊施設があまりないため、上越市などに宿泊してそこからの来訪パターンが多く、その部分を非常にもったいなく感じているといった事実もうかがい、宿泊施設には事欠かない下呂市はある意味理想的な開催地であると感じました。今回は四美地内のみでの開催ですが、将来的には市内全域に展開して、二次交通を整備し下呂温泉街・湯屋温泉街から各地を周遊するメニューが確立できそうです。ただし、ネックになるのはやはり地元住民の意識・熱意だと思います。運営に当たっておられるNPO法人の方が言ってみえましたが、「20年やってきてやっと農家のおじさんがこっちを向いて話してくれるようになった」～この言葉がすべてではないでしょうか。一朝一夕で結果が出るものではありません。辛抱強く諦めないで、地域住民と信頼関係を構築しながらとにかく継続して開催していくことです。そのためには、しっかりと予算確保をしなければなりませんし、国・県への働き掛けも重要です。何のために開催するのか、ということを常に念頭において取組んでいかなければなりませんし、それをやり遂げる相当の覚悟も必要と強く感じました。